

平成31年度
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
 成果報告書

団 体 名	NPO 法人ふらの演劇工房	
施 設 名	富良野演劇工場	
助 成 対 象 活 動 名	普及啓発事業	
内定額(総額)	1,132	(千円)
公 演 事 業	0	(千円)
人 材 養 成 事 業	0	(千円)
普 及 啓 発 事 業	1,132	(千円)

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p> <p>NPO 法人国内認証第一号の NPO 法人ふらの演劇工房は、富良野市から管理運営を委託されている「富良野演劇工場」を拠点として活動している。</p> <p>富良野演劇工場で行う社会的役割（ミッション）を下記の2点としている。</p> <p>I. 演劇を核にして大人も子どもも楽しめる豊かなふるさとづくり</p> <p>II. 日本中の人々が感動を求めて訪れる地域づくり</p> <p>そのミッションの中核を担う取り組みが今事業である。実施のきっかけは、1976年に富良野へ移住した作家・脚本家・倉本聰氏存在である。倉本氏は創作活動続ける傍ら、演劇私塾を主宰。全国から応募し、高い倍率をくぐり抜けた入塾生たちを育成し、彼らと共に富良野で舞台・芸術作品を創作し続けた。その活動を支え、応援した地域住民らが、演劇の持つ力に啓発され、「演劇によるまちづくり」を目指し、日本初の NPO 法人ふらの演劇工房を組織した。富良野市はその活動に呼応し、日本初の公設民営劇場「富良野演劇工場」を建築した。この事業は、NPO 法人ふらの演劇工房の最重要事業の一つである。2003年に富良野市が開基 100 年を迎えた時、記念事業の一つとして、市民が企画立案をした。地域・沿線の老若男女が、富良野塾 0B の指導で、演劇作品の創作、出演、技術を習得し、「富良野演劇工場」のステージでその成果を発表するものである。演劇作品の完成までの行程を体験することで、演劇が持つ力を活用し、地域の活性化を推進するための事業である。NPO 法人ふらの演劇工房を中心として、以下の団体が協力し官民協働による事業を成し遂げた。</p> <p>【協力体制】</p> <ul style="list-style-type: none">●富良野市…協働による事業運営●富良野塾 0B ユニット…演技・技術指導●富良野市、沿線町村の住民…事業参加、運営支援、観劇等
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>【富良野市の総人口の現状と将来予測】昭和 40 年の 36,627 人をピークに減少傾向。過疎化の一途をたどる。富良野の農業・観光・環境を融合させ、地域の観光マーケティングやマネジメントを担う「富良野版 DMO」を立ち上げ観光振興政策を実施している。観光振興政策で、地域の潜在力を PR し、訪れて良し、住んで良しの地域ブランドを確立する様々な取組が行われようとしている。</p> <p>【文化的意義】富良野市を中心に沿線全体の市民・町民らが、倉本氏が育成した富良野塾 0B ユニットの指導で演劇作品を創作し、プロ仕様の劇場でその成果を発揮する一連の取組を長期に実施続けることが、演劇文化をこの地に根づかせる。北海道の過疎地で名前も全国に知られていない地方都市が、独自の文化活動でその存在を国内外に示すことができたことがその意義である。</p> <p>【社会的意義】倉本聰氏のドラマで全国にその名を浸透させた「富良野」が、この事業で水準の高い芸術・文化を育む地域性を持つことが「地域住民の生きがい」の創出になり、新しい産業に繋がる。その先に「若者の都会流失の歯止め」や「移住者の増加」へと繋がることが期待される。</p> <p>【経済的意義】事業の成果が直接的に地域経済に繋がることはないが、その効果は、富良野市にとって大きな影響をもたらしている。まずは、講師の生活支援である。プロの演劇人が地域に在住し、演劇の普及啓発に関与し続けることで、富良野塾 0B ユニットの生活基盤に支援をすることができる。その結果、彼らは演劇の創作が出来、興行収入を得ることが出来る作品づくりに取り組むことができる。演劇作品が地域の産業の一つとなれば、観客の交通費、宿泊代、飲食代、地産商品の購買に繋げて行くことができる</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

【目標】

- ①劇場・音楽堂の活性化 ②富良野市を中心に地域・沿線住民の事業への関心度の向上
- ③実演作品の水準向上

【指針】

- ①事業参加者数 2,000名以上
- ②成果発表時に各舞台の延べ観劇者数が定員の7割以上 1,680名以上

【結果】

●指針から見る成果

1. 事業参加者数 2,000名以上 → 実績 2,278人＝達成率 114%
 2. 成果発表時に各舞台の延べ観劇者数が定員の7割以上 1,680名以上 → 実績 1,975人＝達成率 118%
- 総合的評価＝上記2項目の平均数値は平均 116%。周到的準備ときめ細かい実施計画で目標はクリアした。

●劇場・音楽堂の活性化の観点

- ・地元在住のプロの指導を受け地域住民が作品を発表する演劇祭は、富良野特有の芸術・文化に成長した。17年間継続しているこの事業は、富良野市及びその沿線の地域にとって欠くことのできないイベントでありこの施設が、活性化されるために必要な事業である

●事業への関心度の向上の観点

- ・北海道新聞へのチラシ折込、取材記事、市広報、地元FM、市内小中高への告知を徹底。上演作品情報だけでなく、指導のエピソードや取組の様子などの情報発信を行い、参加者のみならず、富良野市を中心に地域・沿線住民の、関心を高めた。

●実演作品の水準向上の観点

- ・2003年に第1回実施から、第17回まで途切れることなく実施されてきた「ふらの演劇祭」地域の児童・生徒たちは、最大6年間のプロ指導と演劇専用劇場での芸術作品の創作活動に参加することが出来、学んだすべてが、発表作品に反映されていることが実感できる。また、学校現場の指導者たちの意識にも影響を与え、作品のクオリティーにも影響を与えている。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【事業期間について】事業の推進にあたって、実施の行程は以下のように計画どおり遂行した

●子どもたちのための演劇指導

富良野市内・近郊の小中学校 7 校にプロの演劇人である富良野塾 0B の俳優を指導者として選任。上演作品決定後制作プランを各校と協議。その後、各学校で 4 回、富良野演劇工場で 3 回、計 7 回の演技指導を行った。富良野演劇工場の練習時には技術指導の富良野塾 0B が新たに加わり、プロ仕様の舞台、照明、音響設備で児童、生徒、教師に操作を指導した。その成果発表の本番では、各公演で全てほぼ満席の観客を大いに沸かせた。

●大人たちのための演劇指導

一般市民の老若男女が所属する劇団「へそ家族」を指導。6 月、演技・技術で参加するスタッフ・キャストを公募で募集し新たに加わせた。富良野塾 0B ユニットに所属する、8 月から、久保隆徳、大山茂樹の俳優 2 人の講師とし、10 月 14 日の富良野演劇工場での本番まで 20 回以上の指導を受けて新作を完成させた。当初の計画に沿って進めた事業は、本番を無事に終えることで完了した。

【事業費について】当初の計画に則り予算通り執行された

富良野塾 0B ユニット業務委託 3,062,500 円

【内訳】

演劇指導 7 校、7 回、49 回	1,102,500 円	市民劇演技指導 2 人 20 回	700,000 円
技術指導 舞台 1 人 28 回	420,000 円	技術指導 照明・音響 2 人 56 回	840,000 円

【助成金】 1,132,000 円

【自己負担額】 1,930,500 円

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

【視点1】劇場・音楽堂等が地域の文化拠点として機能を最大限に発揮するための資源

【象徴する人物…倉本聰氏】日本を代表する作家・脚本家である倉本聰氏は、舞台創作の拠点「富良野演劇工場」で、84歳となった現在も脚本の執筆や舞台演出を行っている

「富良野演劇工場」のステージでは、自身が主宰する演劇集団「富良野 GROUP」の公演を上演し、富良野公演の後、全国ツアーを実施するスタイルを確立した。また、「富良野演劇工場」で、氏が創作した1,000本に及ぶTVドラマ、映画などの作品の創作秘話を語るトークライブラリ「富良野やすらぎの刻」を月に一度、開催。全国から集まるファンの前で、文化・芸術を語る貴重な機会を創出し続けている。

【鍵となる人物…太田竜介工場長】

倉本聰氏の主宰する『富良野塾』の10期生で、シナリオライターの指導を受けた太田竜介は、卒業後、東京で演劇活動を行っていたが、2000年に「富良野演劇工場」が開設される時、倉本氏からの依頼で、劇場の管理・運営に従事するために富良野に移住した。現在、NPO法人ふらの演劇工房の理事・事務局長であり、劇場の管理責任者である「工場長」である。また、富良野高校が開設している「表現科」の講師でもある。そして、今事業のプロデューサーで青少年の育成の中心人物であり、道内外の小中高及び成人の団体から年間50本以上要請される「表現とコミュニケーションのワークショップ」の担当として体験事業を実施している。

【提携団体…富良野塾 0B ユニット】

富良野塾 0B ユニットとは、『富良野塾』の卒業生であり、富良野を拠点に活動する俳優、スタッフ達によって2008年に結成された演劇集団。演劇活動だけでなくとどまらず、演劇を通じたワークショップや、コミュニケーション能力の向上など、全国の学校関係者や企業などからの依頼を受ける。今事業では、演技及び技術指導を受ける。

【富良野演劇工場】

2000年10月、富良野市が建設し「ふらの演劇工房」が管理・運営する、全国初の公設民営劇場として、オープン。設計の段階から作家・倉本聰氏やプロの照明家・音響家・俳優などが参加し、創り手から見た理想を具現化した「創り手のための劇場」である。

『「多目的」は限りなく「無目的」に近づく』という倉本氏のアドバイスから、演劇創作の機能に特化。客席（302席）より舞台スペースを広く取り、大道具製作室（ワークショップ）・衣装室・リハーサル室・グリーンルーム（出演者・スタッフのサロン）など、創り手にとって必要な設備を備え、アーティストの想像力をフルに発揮できる環境が整えられている。

【「富良野演劇工場」舞台ホール】
ステージから300席の客席を望む



- 舞台（両袖を含む）
496.84 間口：12.5m、
奥行：15m、高さ：
14.46m、吊り物：バトン
27本
- 客席（302席）
272.58 m²

【ステージ上でのWS風景】
市外からも申込多数の人気体験メニュー



(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

【視点2】普及啓発の企画内容の独創性、新規制、先導性

●事業の成果

・子どもたちの指導

プロの演劇人による指導を受けられる経験は、作品を発表する事だけではなく、創作過程から学ぶ表現力や協働作業で生まれる連帯感などを経験することで、児童・生徒一人一人の成長に繋がっていると思われる。

・大人たちの指導

参加者らに仕事や学校、家庭などでは味わえない充実した時間を提供し、質の高い作品づくりに繋がっている。日々の暮らしに潤いを与え、活力を生み出す「富良野ならではの」のアフターファイブの過ごし方と注目されている。

●地元高校生たちへ、演劇の力の波及効果

今事業は、発表が10月となるため、就職、受験等で時間が取れない高校生は対象とせず、小中学生及び一般市民に向けての実施となっている。しかし、地元にある2つの高校においても、今事業の活動を反映させて取り組みを行っている。その一つは、2013年から富良野高校の選択科目に「演劇表現」と「身体表現」の選択科目を設置。講師は、太田演劇工場長と富良野塾0Bユニットの俳優久保隆徳氏が勤めている。その校風の下、クラブ活動である富良野演劇同好会が2019年、オリジナルの演劇作品で全道大会の最優秀高に選ばれ、夏に開催予定だった「全国大会」の出場資格を得た。富良野高校の生徒の多くは、この事業に参加した児童・生徒たちが進学をしており、「演劇」を通して培われた個性とコミュニケーション力が、高校生になっても継続し、努力が実を結んだといえる。

●富良野塾0Bユニット公演新作「愛の書く物語」のロングラン公演の成功

普及啓発の講師である提携団体「富良野塾0Bユニット」は、倉本聡氏が演劇人として指導した卒塾生たちの集団である。卒塾後も生活拠点を富良野に置き、全員「富良野 GROUP」のキャスト・スタッフでありながら、ユニット独自の演劇を地域に支えられ、地道に築き上げた活動に固定客も多い。10年以上の活動が実を結び、2018年度のオリジナル演劇公演「みずのかげら」では、富良野市及び地域沿線の動員が2,000人を超え、ついに、念願の札幌「かでの」公演を実施することが出来た。2019年には待望の新作「愛の書く物語」を太田竜介工場長の作・演出でリリース。近隣地域の公演と、札幌「かでの」公演、また、旭川ケーブルテレビ・ポテト、当麻町、鷹栖町と共催し、当麻町公演、鷹栖町公演の成功を実現させた。

●体験学習「コミュニケーションワークショップ」のニーズを拡大

普及啓発事業をきっかけに、青少年を対象とした演劇の稽古に用いられる「シアターゲーム」の手法を取り入れ演劇工場職員及び富良野塾0Bユニットが、道内外からの小・中・高生らに「コミュニケーションワークショップ」と名付けた独自のワークショップ方法を実施。その効果が口コミで広がり、年間60本以上の学校の研修を道内外から受け入れ、会社の研修や地域のコミュニティーから実施を要望されるようになった。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

①富良野高校単位制選択科目「舞台創作」「身体表現 B」への講師派遣

2015年から「演劇のふらの」を標榜する富良野の特徴を取入れ、道立「富良野高校」が選択科目として導入した科目に当 NPO が講師を派遣する取り組みの継続

②日本初 NPO 法人ふらの演劇工房、認定 20 周年

市民が主体となって「演劇によるまちづくり」を標榜した、日本初の NPO 法人である「ふらの演劇工房」が 2019 年で創立 20 周年を迎えた。また、富良野市から管理委託を受けている公設民営劇場「富良野演劇工場」は、2020 年で創設 20 年となった。組織の活動方針の一つである「学校演劇の支援と育成とふらの演劇祭の開催。学校への演劇指導。」を担うこの事業は、継続することで、指導者の成熟と事業の充実の成果を持って、継続的に発展したと思われる。

③「U-18 高校生演劇ワークショップ」の開始

この事業の発展的な取組として、2019 年度、初の取組として、地域、沿線の高校生を対象とする演劇ワークショップの参加者を募集。

学校や市町村のくくりを越えて、演劇作品を創る取り組みを開始した。担当は、富良野演劇工場の職員と富良野塾 0B ユニットで、倉本聰氏の劇団の看板俳優、久保隆徳氏が担当する。さまざまな枠を超えた高校生たちが、演劇で協働し、文化芸術で繋がることで更なる地域の活性化を目指す。

④富良野高校演劇同好会、応援団体発足

「高校生演劇大会」で富良野高校演劇同好会が富良野史上初めて最優秀賞を受賞し全国大会進出を勝ち取った。その応援団が 2020 年 3 月に発足した。組織の会員は NPO 法人ふらの演劇工房の他、法人を立ち上げた元理事や、高校の 0B、地元企業などの市民有志。この事業が継続した延長線上にある快挙を更に応援する組織が立ち上がり、「演劇によるまちづくり」は、一層の発展を遂げている。